

## 背ビレでミナミハンドウイルカを識別してみよう ～#74と#6～



撮影日：2017/5/1

**#74・♀**  
**ウイング**

撮影日：2016/6/9

イルカ通信No.1（2002年）でも紹介されたメスの個体で、これまでに出産を1回確認しています。イルカ調査の開始当初からよく観察されていて、背ビレに大きく二つの欠損があるのが特徴。まるで翼のように見えることから「ウイング」と呼ばれています。父島だけではなく、智島列島でも目撃されています。



撮影日：2017/5/28  
提供：打込みゆき

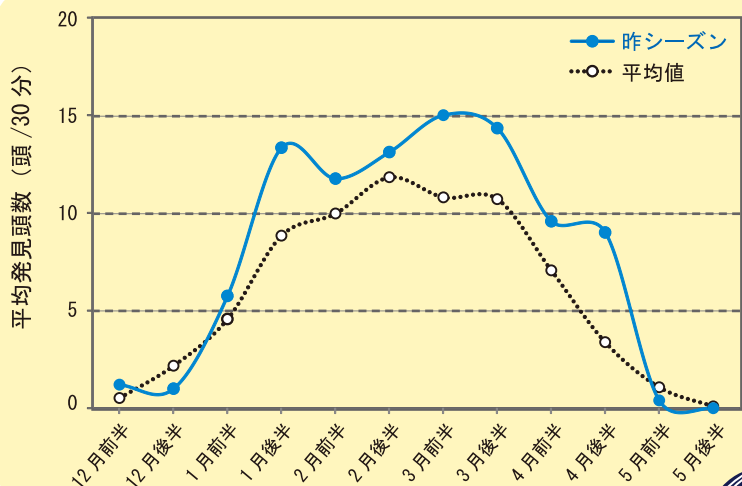
**#6・♀**  
**カククン**

撮影日：2017/5/28  
提供：打込みゆき

こちら2002年からほぼ毎年のように確認されている個体。背ビレの付け根から3分の2あたりが後ろにカククンと折れ曲がっています。その特徴から、イルカ調査隊からは「カククン」の愛称で親しまれています。男の子っぽい愛称ですが、少なくとも4回の出産経験もある女の子です。

今回、ご紹介したミナミハンドウイルカはいずれも出産経験のあるメス個体で、生まれた赤ちゃんは少なくとも3年間、お母さんイルカと一緒に泳いでいるようです。また、これまでの調査から出産間隔が、およそ3年という事も分かってきました。

## ザトウクジラがやってきました！！



八丈島からザトウクジラが見られたとの知らせを受けた翌日の11月16日、ここ小笠原でも今シーズン初ザトウクジラが確認されました。場所は、母島の東崎の沖。今年度のザトウシーズンのスタートは母島からとなりました！！ちなみに父島では、19日の夕方に烏帽子岩の西側で初クジラが見られました。

左の図は昨シーズンのウェザーステーションからのザトウクジラの定点観測の結果とこれまでの平均値になります。昨シーズンの発見頭数について、12月は例年並みであり、1月後半から4月にかけては、例年よりも多いという結果になりました。さてさて、今シーズンはどのようなシーズンとなるのでしょうか？楽しみですね～。